

令和7年度 系島市立志摩中学校学校関係者評価（抜粋）

学校経営方針	
生徒の安全・安心を最優先し、ビジョンを明確にした学校経営を行い、保護者や地域に信頼された学校づくりに努める。	
令和7年度重点目標	具体的目標
1. 自ら進んで課題を見つけ、意欲的に学習に取り組む生徒 2. 規範意識と自他を認め、高め合う、心豊かな生徒 3. 強度を愛し、積極的に地域に貢献できる生徒	○ 各種の学力検査等において、全教科県平均を超える。 ○ 生徒授業アンケート（年間2回）において、『わかる授業』の項目が3.5以上 ○ 家庭学習の定着 2.8 以上 ○ 生徒アンケート（年間2回）において、『学級・学校が楽しい、好き』の項目が3.5以上を目指す。不登校生徒数 20 名以下

学校の自己評価				自己評価に対する学校関係者評価委員会の評価	
評価（総合）				評価（総合）	
B				B：自己評価は「概ね適切」である。	
評価項目	具体的目標	評価（3月）		項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
学力向上	基礎・基本の定着	B	B	B	全教科・学年で学力調査県平均以上を達成しており、教師陣の指導力や学校の体制は大変評価できる。一方で授業評価における学習意欲などの数値は、2年生が他学年より極端に低い。この要因として、1組当り生徒数が他学年より10人程度も多いことや若年教師の増加が挙げられる。少人数学級の教師の業務負担や若年教師の研修時間の確保などが、そのまま生徒たちの学力低下に影響している可能性が考えられる。構造的な問題として仮説検証するなど、市全体で支援・対応が必要である。
	わかる授業の創造	A			
生徒指導	規範意識の向上	B	B	A	生徒会主体の企画・運営活動が導入されるなど、生徒自身の規範意識向上に向けた取り組みを積極的に導入している点が大変評価できる。不登校数は全生徒数が増えていることや、他校と比較できるよう、「人数」ではなく「割合（％）」指標にするなど検討されたい。
	思いやりの心の育成	B			
組織運営の充実	校務分掌組織の活性化	A	A	A	文科省研究開発校として「わくわく授業」など教師のやりたい講義やゼミ形式から生徒に選ばせる講義など教師の資質向上や組織内の挑戦意識を高める仕組みは評価が高い。同時に、本授業を保護者参観などで共有する機会を設けることを検討すれば、改訂学習への定着や学校運営への協力意識の向上も期待される。
	教師の指導力の向上	B			
教育環境の整備・充実	学校環境づくり	A	B	B	校内各所で学内の掲示等は積極的に行われ、学びをアウトプット・共有する場が提供されている。また、広報動画で最優秀を獲得するなど生徒たちの新しい体験の創出や情報発信の場も提供されている。
	生徒の姿が見える掲示物の充実	B			
家庭や地域との連携	家庭との連携強化	B	B	B	家庭や地域への情報発信の基軸となるホームページの掲載・更新が人員不足などから慢性的な課題となっているため、教職員のAI活用による記事作成などを検討していく必要がある。
	小学校・地域との連携強化	B			
評価項目以外のものに関する学校関係者評価委員会意見					
研究開発校としての取り組みにより、授業の「時間量」から「質」への転換が具体化しつつある点は高く評価できる。持続的な教育改革モデルへと昇華させることが期待される。市全体への波及と長期的な教育環境向上に向け、引き続き協力していきたい。					
自己評価及び学校関係者評価委員会の評価を基に学校がまとめた改善策					
【学力向上】仲間とともに学び合う生徒の育成をめざし、生徒授業評価をもとにPDCAサイクルを回し授業改善に取り組む。若年層の教員の研修時間を確保し授業力向上に努める。					
【生徒指導】不登校生徒を生み出さないための授業改善・学級集団づくりに取り組む。中学校区で共通の取組を行っていく。					
【組織運営の充実】「報告・連絡・相談」の徹底を図る。研究開発により生み出された時間を、学年・教科部組織等、日常的に関わり合う関係の中で「学び合う」職員集団を構築し、同僚性を高める時間に充てる。					
【教育環境の整備・充実】安心して学べる教育環境の充実を図る。生徒の自尊感情を高めるために生徒の活動の「見える化」を図る。					
【家庭や地域との連携】小中連携による小学生・中学生の交流並びにともに活動する機会を増やす。「校区事業」の内容を検討し、9年間の学びの構築を行う。					